



広報

なほ

市民の友

第662号 毎月1回発行
2006年(平成18年)

3月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 光文堂印刷株式会社

市の人口と世帯		
※()内はうち外国人		
2006(平成18)年1月末現在		
総人口	315,597	(1,870)
男	152,563	(957)
女	163,034	(913)
世帯数	127,959	(1,064)
(住民基本台帳人口に別荘の所有者を除く)		
本 庁	92,463	
真和志	105,989	
首 里	58,385	
小 禄	56,890	



子どもたちのために美しい地球を

主な紙面

通くワケ水めぐり
那覇のすぐりむんが堂に那覇の物産展
平成18年度(2006年度)
市長の施政方針要旨
情報P.A.C.K.

6 4
7 5

ゼロエミッション フォーラム・イン・那覇

市では、平成13年度に全国の自治体に先駆けてゼロエミッション推進室を設置し、地球環境との共生と持続可能な資源循環型社会の構築に向けて事業を展開してきました。

平成16年度には、新エネルギービジョンを策定し、クリーンエネルギー自動車の普及啓発など、新エネルギーに向けた取り組みを始め、持続可能な社会づくりを推進してきました。

今回、このような取り組みが評価され、唯一日本に本部がある国連の機関で、人類の存続や発展・福祉に関わる地球規模の緊急課題について研究している国連大学の指名を受け、同大学との共催による「ゼロエミッションフォーラム・イン・那覇」を、1月26日にパレット市民劇場で開催しました。

同フォーラムは、全国のモデルとなるような先駆的な取り組みを行っている地域で行われるもので、年4回ほど開催されています。

フォーラムでは、環境エネルギー政策研究所所長・飯田哲也氏による「北欧の自然エネルギー政策」についての基調講演のほか、パネルディスカッションでは、県内企業が独自で研究・開発している二酸化炭素削減への取り組み、市が学校や市営住宅などへ導入している太陽光発電について紹介されました。

協働のまちづくり 那覇を紡ぐ

「協働」とは、市民、市民団体、事業者、市が機能の違いや相互の特性を理解し互いに補完し合い、よきパートナーとして、協力し合う活動体系をいいます。個人あるいは一つの組織だけではできないような地域的な課題の解決や課題を解決するために行います。

みなさんは、地域づくりに苦勞されたことはないでしょうか？
地域づくりで大切なことは何だと思いませんか？
石嶺地域には、地域の活性化を目標に、旗頭やエイサーなどの地域芸能の育成、福祉活動の推進、他団体との連携事業などの地域活動を活発に行っている「石嶺町北翔会(以下、北翔会と記す)」という団体があります。

石嶺地域は市内でも新興地域であるため、地域づくりが急務でもありました。

しかし、新興地域ゆえ故郷石嶺を大切にしたい、夢と希望のある地域にしたい、という想いを持つ人々が数多くいました。

それが、ボランティア団体という枠組みを超え、既存の自治会とも違う、独自の地域コミュニティが形成された北翔会を作り上げる原動力になりました。

現在、同会は、首里文化祭をはじめ、町内小中高の学校行事や平和学習、福祉まつりなどの地域事業への参加、公民館事業への協力などを積極的に行っています。

また、地域コミュニティづくりという観点から、石嶺公民館でも地域ネットワークの核として、各種のクラブ活動を通じて、新旧市民を結び、また大人と子供を結び

地域コミュニティづくり の先駆けとして

地域コミュニティの衰退が懸念されている昨今、活発に活動しているコミュニティづくりの姿に触れる良い機会ではないでしょうか。